

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

天皇盃第 75 回全日本男子弓道選手権大会
皇后盃第 57 回全日本女子弓道選手権大会





日本武道館
開館60周年

(公財)日本武道館開館六十周年記念式典・祝賀会

記念式典・祝賀会を挙

——日本武道館の節目の年を盛大に祝う

公益財団法人日本武道館開館六十周年記念式典・祝賀会



鏡開き。左から川端理事長、高村会長、自井前理事長



日本武道館の開館六十周年記念式典・祝賀会が10月2日、ホテルグラウンドアーク半蔵門（東京都千代田区）で開催された。会場には来賓・関係者約280名が集まり、日本武道館の節目の年を盛大に祝った。

式典・祝賀会は吉川英夫日本武道館常任理事・事務局長の開式の辞に始まり、国歌斉唱の後、高村正彦日本武道館会長が挨拶を行った。続く来賓祝辞では、寺門成真スポーツ庁次長があべ俊子文部科学大臣の祝辞を代読した。

次に日本武道館の活動に貢献いただいた功労者の表彰が行われた。特別功労賞の臼井日出男日本武道館前理事長と、ほか功労賞3名の受賞者に楯たてが授与されると、会場は大きな拍手に包まれた。続いて高村会長、川端達夫日本武道館理事長、臼井前理事長の3名で鏡開きが執り行われた。川端理事長が乾杯の発声を行うと、参加者たちの乾杯の聲が会場に響き渡った。

その後の懇談では、参加者たちは賑やかに歓談を交わし、式典・祝賀会は盛会のうちに閉会した。

主催者挨拶



公益財団法人日本武道館会長
高村 正彦

道が必修化され、「礼節」と「道の文化」の充実に取り組んでいるところであり、まず、「仏を作って魂を入れる」、関係者と協力しながら中学校武道必修化の充実に努めてまいる所存であります。

令和3年にはオリンピック・パラリンピック東京大会が開催され、日本武道館は柔道と空手道の会場となりました。オリンピック・パラリンピック大会の成功、日本武道館のレガシー化、共生社会にふさわしいバリアフリー化を目標に掲げ、全館的な増改修工事と中道場の増築を実施いたしました。

日本武道館は、今から60年前、国会の決議を経て、天皇陛下より御下賜金を賜り、我が国伝統の武道を、国民とくに青少年に普及奨励し、その精神を高揚するとともに、広く世界の平和と福祉に貢献することを目的として、昭和39年10月に開館いたしました。

千葉県勝浦市には約300名が宿泊できる研修センター

を運営しており、隣接する国際武道大学ともども、広く国内外の武道愛好者に親しまれています。また、日本武道館は「文武両道」の旗印を掲げ、正月恒例の書初め席書大会、夏の高円宮杯公募展など、書写書道の振興普及事業も幅広く実施しております。

開館60周年を契機に、我が国が将来も豊かで平和な国であるよう、武道による青少年の健全育成を中心事業として、さらなる前進に向けて努めてまいりますので、より一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

日本武道館は、昭和39年に東京オリンピックの開催に合わせ完成し、60年の長きにわたり我が国における武道振興の拠点として、毎年全国各地で錬成大会や指導者研修会を実施され、また外国人を対象とした武道文化セミナーを開催されるなど、我が国の武道の普及と武道を通じた青少年の健全育成、国際交流の促進に、多大なるご尽力をいただいております。

武道は我が国の歴史と伝統に培われた世界に誇る日本文化であり、日頃の修練を通じて心を磨き、礼節を重んじ、相手を思いやる気持ちを養うなど、豊かな人間形成に資するものであります。今日、我が国の武道が子供から大人まで、さらには世界中の愛好家によつて親しまれていることは、日本武道館の長年にわたるご尽力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

文部科学省においても、この大切な文化を次世代に確実に継承し、発展させることができるよう、武道振興施策の一層の充実に取り組んでまいります。

(文部科学大臣 あべ俊子)

来賓祝辞 (代理)



スポーツ庁次長
寺門 成真



公益財団法人日本武道館理事長
川端 達夫



本日、日本武道館開館六十周年記念式典・祝賀会を、多くの方々をお招きして開催できますこと、心より御礼申し上げます。
日本武道館が開館した年の出来事として、昭和39年は、4月1日に海外観光渡航自由化と、それに伴う観光目的でのパスポートが取得可能に、10月1日に東海道新幹線開通などがありました。そして、10月3日に

日本武道館が開館、同月10日にアジア初となる第18回夏季オリンピック東京大会が開催され、日本武道館が柔道の競技会場となりました。
その後、日本武道館では60年の長きにわたり、多くの武道家が心を磨き、技を鍛え、汗を流し、歴史を刻んできました。また、日本武道館は音楽の聖地として多数のアーティストがコン

サートを行い、国民の皆様
の感動を生んできた会場でもございます。

これからも武道館としての役割をしっかりと果たすとともに、多くの人に愛される日本武道館であり続けたいと願うと同時に、これまでご協力いただきました全ての皆様に敬意と感謝を申し上げます。



特別功労賞 受賞者インタビュー

白井 日出男

日本武道館前理事長



【プロフィール】

白井日出男（うすい・ひでお）

昭和14年、千葉県生まれ。36年中

央大学経済学部卒業。

55年衆議院議員初当選。平成8年

第1次橋本内閣にて防衛庁長官として

初入閣。以後、法務大臣を歴任。

平成2年に日本武道館評議員に就

任。20年〜令和5年に理事長を務め

る。

平成21年に、旭日大綬章を受章。

日本武道館開館当時、国会議員であった父が大道場で御前試合を行い、私は付き添いで拝見しながらとても感動したことを今でも覚えています。爾来私は日本武道館とご縁があり、平成20年から令和5年まで15年間理事長職を務めさせていただきました。このたび、このように功労賞をいただきましたこと大変光栄に存じ、厚く御礼申し上げます。

日本武道館のさまざまな武道振興事業の中で、私が特に思い出に残っているのは毎年1月の年明けに、日本武道館研修センター（千葉県勝浦市）で行われる全国高等学校・中学校剣道（部活動）指導者研修会です（現在は10月に実施）。新年早々全国から多くの参加者が一生懸命稽古に取り組む姿勢に大変感激し、私も何度か参加させていただいたことを懐かしく思い出します。日本武道館には今後ともさらに武道の発展のために貢献していただきたいと思っております。



第39回全国高等学校・中学校剣道（部活動）指導者研修会（平成28年）



特別功労賞の楯を受け取る白井前理事長



平成22年鏡開き式。同事業で3度目の大將軍を務める

鹿島 則良

鹿島神宮前宮司



第1回鹿島神宮奉納日本古武道交流演武大会(平成22年) 楼門前で大会役員、演武者らと集合写真

鹿島神宮の大神様の武甕槌大神様たけみかづは、神話の時代から武の神様として崇められております。武という字は「戈を止める」というように書き、そのように国を守ってこられました。

毎年日本古武道交流演武大会が開催でき、多くの方々が鹿島神宮に参拝に来ていただけているというのは、大変ありがたい思っております。長い歴史の中で育まれてきた武道を、しっかりと受け継いで、次の世代にと思っておりますが、武道では「練習」ではなく「稽古」といい、稽古は古くから伝えられているものを身につけるといふ意味を持ちます。武道を嗜みたのむとされている方々にはしっかりと稽古に励んでいただき、日本武道館には次世代へ繋がるようにご協力いただきたいと思います。

【プロフィール】

鹿島則良(かしま・のりよし)

昭和22年、静岡県生まれ。

鹿島神宮宮司を代々担う、中臣鹿島連71代目当主。平成16年から令和5年まで宮司を務める。

安西 祐一郎

慶應義塾大学名誉教授
元慶應義塾長



慶應義塾体育會剣道部剣道祭にて小学生の稽古の元立ちを務める安西氏(2015年頃)

このたび、功労賞を拝受し光栄なことと感謝申し上げます。

開館当時の私は高校生でしたが、1960年代頃の「これから日本が頑張っていく」という時期に、日本武道館をはじめ多くの武道家の方々が素晴らしい活躍をされていたことを覚えています。開館から60年が経った今、世界の中で日本が独立国としての存在感を示していかなければならない中で、自国の伝統文化をしっかりと継承して、老若男女がその精神を持ち続けるということはとても重要なことだと考えています。

この節目の年を越えて、日本がまたさらにエネルギーを持てるように、武道関係者の方々とともに私も頑張っていきたいと思っております。

【プロフィール】

安西祐一郎(あんざい・ゆういちろう)

昭和21年、東京都生まれ。平成13

〜21年慶應義塾長。

現在、慶應義塾学事顧問、一般財団法人交詢社理事長、月刊「武道」編集顧問、日本武道協議会武道功労者表彰審議会有識者委員など。

功労賞 受賞者インタビュー

伊藤 元明

福徳教会管長／沖縄親善大使
 ／東京都剣道連盟相談役
 ／全日本医師剣道連盟名誉会長



第3回全国なぎなた指導者研修会で講義をする伊藤氏（昭和60年11月）

日本武道館開館六十周年の慶賀に際し、功労者として表彰された光栄に心から感謝の意を捧呈いたします。

私は医剣宗一途の亡父伊藤京逸（東大医学部卒・整形外科医・武道学園講師・全日本剣道連盟科学委員長・剣道範士）のスポーツ医学の座学を嗣いで十数年の永きにわたり講義を担当いたしました。

日本武道館研修センターにおける講義の思い出は尽きません。特に群馬県の御巢鷹山に日本航空のジャンボ機が墜落した当日の座学を担当した私は、それ以後のテーマに「生」と「死」の問題を導入して講義を続け、生と死のはさまで誕生した日本固有の武道を日本人の知性として語り継ぎました。

【プロフィール】

伊藤元明（いとう・もとあき）

昭和11年、東京都生まれ。42年東京医科大学外科大学院卒。
 琉球大学保健学部助教授、東海大学医学部助教授、杏林大学客員教授を歴任。

現在、聖イトオテルミー学院学院長。

懇談





天皇盃第75回全日本男子弓道選手権大会

山田勝也教士七段が 初の天皇盃制覇

天皇盃第75回全日本男子弓道選手権大会・皇后盃第57回全日本女子弓道選手権大会が9月21～23日の3日間（女子開会式21日、女子大会・男子開会式22日、男子大会23日）、三重県伊勢市の神宮弓道場で開催された。全国各地の予選を通過した98名（男女ともに49名）が出場し、日本一の称号をかけた戦いが繰り広げられた。

男子の天皇盃（9月23日）は山田勝也（静岡）が初優勝に輝いた。女子の皇后盃（9月22日）は有澤千秋（鳥取）が皇后盃と最高得点賞の2冠を達成した。

皇后盃第 57 回全日本女子弓道選手権大会



有澤千秋教士七段が
皇后盃と最高得点賞
の2冠に輝く



2位＝黒田素直教士七段（山口）



最高得点賞＝橋本隆志錬士五段（鹿児島）



3位＝梅津匡行教士七段（青森）

天皇盃・男子

青空の下で優勝をかけた戦いが行われた。

予選では前回大会優勝の原田友康（愛知）が順当に決勝に進出。また、初出場の橋本隆志（鹿児島）が最高得点賞に輝いた。

決勝は予選を勝ち上がった10名により競われた。連覇に期待がかかる原田は、4本目が終了した時点で1本もの中であることができず、厳しい展開となる。5本目以降は立て直

すも、巻き返すには至らなかった。

優勝争いは、山田が10射目を外し、黒田素直（山口）と8中で並び、優勝決定の射詰競射へともつれる。射詰競射は黒田が1本目を外し、山田が決め切り決着。山田が3度目の出場で、初の栄冠を手にした。

7中が5名並んだため、3〜5位決定戦の遠近競射が行われ、梅津匡行（青森）が3位、矢野翼（宮崎）が4位、吉田佳史（徳島）が5位入賞を果たした。



3位=花房千織錬士六段（京都）



2位=伊藤紀美子教士八段（三重）

皇后盃・女子

前回大会優勝の田中慶子（鹿児島）は、10位と1点差で予選11位となり、惜しくも予選で姿を消した。また最高得点賞は、有澤が2大会ぶりに受賞を果たし、優勝に向けて弾みをつけた。

23日の男子選手権とは異なり、決勝は大雨が降る悪天候の中で行われた。厳しい環境にもかかわらず、有澤が洗練された射を放ち、唯一8中を決めて優勝。予選での最高得点賞と合わせて、2冠を達成した。

6中が4名並んだため、2〜5位決定戦の遠近競射が行われた。立順1番の伊藤紀美子（三重）が的の中心近くを捉える見事な射を披露し、2位入賞を果たした。そして花房千織（京都）が初出場で3位、篠田淳美（大阪）が4位、山田直美（大阪）が5位入賞となった。



女子入賞者（左から）篠田、伊藤、有澤、花房、山田



男子入賞者（左から）橋本、矢野、黒田、山田、梅津、吉田

○男子優勝者インタビュー



山田勝也教士七段（静岡）

優勝した今のお気持ちはいかがでしょうか

「まだ実感はありませんが、静岡県
のいろいろな先輩方や先生方への恩
返しの一つできたのかなと思います」

決勝を振り返っていかがでしたか

「10本を詰められなかったこと、最
後の勝負矢を決め切れなかったのが

情けないところだったと思います。
今後、精進して決め切れるようにし
たいです」

優勝決定の射詰競射を振り返っ
ていかがでしたか

「決勝で最後の10本目を決め切れな
かったところが一番の反省点
でしたが、決勝の終了後に周りの
方々にも声をかけていただき、待ち
時間で気持ちをリセットして競射に
臨めました」

今後の目標について

「今回の決勝のように詰めきれない
甘い部分や、安定していない技術の
面であったり、知識の面でもまだま
だ実力不足な部分があるので、そこ
を補えるような練習をしていき、選
手権や国スポで決め切れるようにし
ていきたいです」

▽入賞者コメント

◎最高得点賞 橋本隆志 練士五段

「自分の射をやり切るといふ目標は
達成できたと思います。この賞に恥
じないようにこれからも精進してま
いります」

◎2位 黒田素直 教士七段

「今年の2月に事故で背骨を骨折

し、弓を再開できるのかと不安なと
ころがありました。弓を引ける状
態になり、選手権で良い成績を残せ
て夢のようです」

◎3位 梅津匡行 教士七段

「まだまだ未熟な面が多々あったの
で、反省しきりです。また選手権に
挑戦できるように頑張ります」

立順	氏名	所属	予選			決勝										的中	遠近競射	順位		
			的中数	得点	順位	1回目		2回目		3回目		4回目		5回目						
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩					
1	原田 友康	愛知	4	1436	9	×	×	×	×	○	×	○	○	○	○	○	○	5		
2	黒田 素直	山口	3	1439	7	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	8		2	
3	櫻田 紀行	香川	4	1452	5	○	×	○	○	○	×	○	×	○	×	6				
4	坂本 達雄	青森	2	1458	2	×	×	○	○	○	×	×	×	○	×	4				
5	成田 寿一	東京	3	1435	10	○	○	×	○	×	×	○	○	○	○	7	4			
6	矢野 翼	宮崎	3	1437	8	×	○	×	○	○	×	○	○	○	○	7	2	4		
7	橋本 隆志	鹿児島	4	1461	1	○	○	×	○	○	○	○	×	○	×	7	5			
8	吉田 佳史	徳島	4	1455	3	○	○	○	×	○	○	○	×	×	○	7	3	5		
9	梅津 匡行	青森	4	1452	4	○	○	○	×	○	○	×	×	○	○	7	1	3		
10	山田 勝也	静岡	4	1447	6	○	○	○	×	○	○	○	○	○	×	8		1		

○女子優勝者インタビュー



有澤千秋教士七段（鳥取）

優勝した今のお気持ちはいかがでしょうか

「信じられないです」

優勝を振り返っていかがでしたか

「いつもの悪いところが出てしまったと思いますが、なんとか勝ち切る事ができてよかったです。他の選手の中数は意識していませんでした。自分の目標と目的の中があつたので、そこをクリアすることに集中していました」

大雨の中での決勝でしたがいかがでしたか

「決勝の大雨の影響によるやりづらさはもちろんありましたが、予選から湿気の影響で普段よりもやりづらさを感じていましたが、なんとか踏ん張りました」

皇后盃に加えて最高得点賞も獲得し、2冠を達成されたお気持ちはいかがですか

「それこそ信じられないです。予選の4本目が終わった時点で最高得点はないと思っていました。そこには拘らず、決勝で自分の射ができるようにということだけで臨みました」

今後の目標について

「自分の目標とするレベルを超えられるように1年間かけて練習して、来年の大会でもいい結果を出せるようにしていきたいです」

▽入賞者コメント

◎2位 伊藤紀美子教士八段

「久しぶりの出場で、一生懸命お稽古はしましたが、なかなか思うような射ができず、苦しい思いをしていました。最後の遠近競射で、いいと

ころに矢が中ってほっとしました」

◎3位 花房千織錬士六段

「初めて選手権の舞台に立てたことがとにかく幸せで、一つ一つ大切に射ることができたと思います。これからも頑張ります」

立順	氏名	所属	予選			決勝										的中	遠近競射	順位
			的中数	得点	順位	1回目		2回目		3回目		4回目		5回目				
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩			
1	岩切 久実	宮崎	2	1445	5	○	×	×	○	○	○	×	○	×	×	5		
2	伊藤 紀美子	三重	2	1438	8	○	×	×	○	○	○	×	○	×	○	6	1	2
3	山田 直美	大阪	3	1451	4	×	×	○	○	○	○	×	○	○	×	6	4	5
4	花房 千織	京都	4	1439	6	○	○	×	○	○	○	×	×	×	○	6	2	3
5	山下 由貴	鹿児島	3	1438	7	×	○	×	×	×	○	×	×	×	×	2		
6	篠田 淳美	大阪	4	1451	3	×	○	×	×	○	○	○	×	○	○	6	3	4
7	有澤 千秋	鳥取	3	1504	1	○	○	○	○	○	×	○	○	×	○	8		1
8	西城 亜矢	宮城	3	1424	9	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	1		
9	藤野 小百合	宮崎	4	1493	2	○	×	×	○	×	×	×	×	○	○	4		
10	柏木 百佳子	岩手	3	1424	10	×	×	×	○	○	×	×	○	×	○	4		

8年ぶりに対面形式で開催

——国境を越え、広がる合気の輪



最終日に行われた道主講習会

第14回国際合気道大会が、9月30日～10月6日の7日間、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された。2021年に開催された第13回大会はオンラインでの開催であったため、対面形式での開催は2016年の群馬県・高崎アリーナ以来8年ぶり。

9月30日・10月1日は総会が行われ、10月2～5日には国内外の合気道師範による講習会が開催された。また5日午後の演武会では、約50の国と地域の演武者約200名が日頃の修練の成果を披露した。最終日には、植芝守中央合気道道主による講習会と都内ホテルでのさよならパーティーが行われ、全日程が終了した。

■師範講習会

10月2～5日に、合気道師範による講習会を開催。国内外17名の師範が時間ごとに講師を務め、参加者たちは稽古に励んだ。

10月5日、植芝充央本部道場長による講習会が開催。参加者は植芝本部道場長の体捌きや技を真剣な眼差して見取り稽古し、実践した。講習会の最後には植芝本部道場長が「対

第14回国際合気道大会



面形式で無事に大会が開催されて嬉しく思います。これからも稽古を続け、また皆さんに会えることを楽しみにしています」と締め括った。

最終日の午前中は、植芝道主による講習会が行われた。講習会に先立ち、植芝道主が「多くの方々にご参加いただき、講習会ができることを大変嬉しく思います。これもひとえに皆様の合気道に対する想いがこのような素晴らしい大会を創り上げたと思います。相手への思いやりを持って稽古に取り組み、合気道の素晴らしさを感じ取ってください」と挨拶した。約800名の参加者が道場いっぱいになり、基本の体捌き、入身投げ、一教、四方投げなどの稽古に取り組んだ。

■演武会

10月5日の午後には演武会を開催。約50の国と地域が参加した。国・地域ごとの演武終了後、合気道師範による演武が披露された。参加者たちは師範たちの洗練された動きに目を奪われ、中には師範の演武を撮影している参加者もあり、演武会は大盛況であった。



国際合気道連盟高等委員の
クリスチャン・ティシエ師範（右）の演武



植芝充央本部道場長による講習会



道主講習会で稽古に取り組む参加者



国際合気道連盟の新役員



林典夫合気会常務理事が挨拶をし、乾杯を行った

◆さよならパーティー

最終日の午後には都内ホテルで「さよならパーティー」を開催。約600名の来賓・参加者が出席した。式典では、植芝道主が挨拶をした後、

山谷えり子参議院議員・合気会理事が挨拶。その後、国際合気道連盟（IAF）の新役員の紹介、新理事長の岡本洋子師範が挨拶をし、3年間理事長を務め、役員改選に伴い勇退するウィルコ・フリースマン氏の挨拶と続いた。パーティーでは和気あいあいとした交流が見られ、終始和やかな雰囲気^{あふ}に満ち溢れていた。

会長	植芝守央
理事長	岡本洋子
副理事長	アダム・マニコヴスキー
事務総長	コーリー・ヒューマン
財務総長	加賀 聡
事務総長補佐	イーサン・ワイズガード
理事	チャールス・マクギニス
理事	マグナス・バーマン
理事	ブリッツ・ホイスチャー
理事	ゲルゴ・バスクレティ
アドバイザー	神谷正一
高等委員会議長	多田 宏
高等委員	尾崎 响
高等委員	トニー・スマイバート
高等委員	クリスチャン・ティシエ
高等委員	宮本鶴蔵
高等委員	横田愛明
高等委員	大澤真人
専門委員	菅原 繫
専門委員	栗林孝典
専門委員	ウィルコ・フリースマン

1	アルジェリア※	23	フランス	45	ルクセンブルク	67	サウジアラビア
2	アルゼンチン	24	フランス領ポリネシア	46	マレーシア	68	スコットランド
3	オーストラリア	25	ジョージア※	47	マルタ	69	セルビア
4	オーストリア	26	ドイツ	48	メキシコ	70	シンガポール
5	アゼルバイジャン	27	ギリシャ	49	モルドバ	71	スロバキア共和国
6	ベルギー	28	ゲラム	50	モナコ	72	スロベニア
7	ボリビア	29	ゲアテマラ※	51	モンテネグロ	73	南アフリカ
8	ブラジル	30	香港	52	モロッコ	74	スペイン
9	ブルガリア	31	ハンガリー	53	ミャンマー	75	スリランカ※
10	カナダ	32	インド	54	ネパール	76	スウェーデン
11	チリ	33	インドネシア	55	オランダ	77	スイス連邦
12	コロンビア	34	イラク※	56	ニュージーランド	78	シリア・アラブ共和国※
13	コンゴ共和国※	35	アイルランド	57	北マケドニア	79	中国
14	コスタリカ※	36	イタリア	58	ノルウェー	80	タイ王国
15	クロアチア	37	日本	59	ペルー	81	チュニジア※
16	キューバ	38	カザフスタン	60	フィリピン	82	トルコ
17	チェコ共和国	39	ケニア※	61	ポーランド	83	ウクライナ
18	デンマーク	40	韓国	62	ポルトガル	84	アラブ首長国連邦※
19	ドミニカ共和国※	41	キルギス共和国	63	ルーマニア	85	イギリス
20	エジプト・アラブ共和国	42	レバノン	64	ロシア連邦	86	アメリカ合衆国
21	エストニア	43	リビア※	65	サモア※	87	ウルグアイ
22	フィンランド	44	トアニア	66	サンマリノ	88	ベネズエラ

日本武道館の単行本

剣道の文化誌 明治大学教授 長尾 進 著
四六判・上製・480項・定価2,640円
本書では剣道の持つ文化としての多様な面を、時代を追いながら、わかりやすく紹介する。剣道を愛好する方には剣道を改めて見直さきっかけとして、剣道をあまりご存知ない方には剣道という日本文化の成り立ちを知るガイドとして、ぜひ一読を。

剣道 その歴史と技法 埼玉大学名誉教授 大保木輝雄 著
四六判・上製・516頁・定価2,640円
本書は戦国末期から江戸時代初期を起点に、今日に至るまでの剣道の歴史の発展の経緯を示した。戦国期以前の剣術の有り様を認識した上で改めて各時代の流れに沿った剣道史を考えてみたいという筆者の思いを実現すべく、連載終了後5年のときを経てついに単行本化。

合気道 その歴史と技法 合気道道主 植芝守央 著
四六判・上製・362項・定価2,640円
世界140の国と地域、国内2,400の道場、団体で愛好される合気道。開祖・植芝盛平翁の生涯、植芝吉祥丸二代道主による普及・振興、さらなる発展に繋げた現道主による取り組み。その歴史の中で培われ伝え続けてこられた合気道の理念、それを体現する稽古法、基本的な技法の解説……合気道の全てを網羅した決定版。

空手道 その歴史と技法 小山正辰・和田光二・嘉手苅徹 著
四六判・上製・548項・定価2,640円
空手は沖縄で発祥し、日本本土に伝承され、今や世界のKARATEとなった。その歴史と技法を、那覇系剛柔流の小山正辰氏、首里系松濤館の和田光二氏、沖縄空手研究の第一人者である嘉手苅徹氏の共同執筆で徹底的に紐解く。嘉手苅氏が発見した剛柔流の開祖・宮城長順の最新の事実、小山・和田の両世界チャンピオンのエピソードなども満載。空手の真髄に迫る白眉の一冊。

マンガ・日本武道風土記 漫画家・明治大学客員教授 田代しんたろう 著
B5判・248項・定価1,100円
全国の「武道ゆかりの地」を実際に訪ねて、ペンとスケッチブックを片手に徹底取材。地元関係者や施設の学芸員とのやりとり、その土地の成り立ちをわかりやすくマンガで紹介。多数の資料をもとに丹念に描いた当時の風景も魅力の一つ。マンガの世界で日本各地をめぐってみては。

死ぬまで弓道 弓道教士七段 小牧佳世 著
四六判・上製・342頁・定価2,640円
競技中に急性大動脈解離に倒れた筆者は奇跡的な生還を果たす。その8カ月後に弓道を再開し、わずか2年後に皇后陛下で十射皆中、優勝を果たした。本書では激動の自信を記し、弓のあり方や「早気」など弓道家の誰もが陥る課題などを検索する。死の淵を覗き、現在も全身全霊で弓を引き続ける筆者だからこそ記せた弓道伝記かつエッセイ

学校武道の歴史を辿る 筑波大学名誉教授 藤堂良明 著
四六判・上製・354項・定価2,640円
明治維新を迎え、武術は衰退したが、近代化の過程で武道が「人間形成の道」として学校制度の中に組み込まれ、発展した。太平洋戦争後には武道は全面禁止となるが、それを乗り越え、「格技」として復活。平成24年度には「中学校武道必修化」が実現した。学校武道の歴史を丹念に辿り、今後のあり方を探る。

ご注文・お問い合わせ
(公財)日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<https://www.nipponbudokan.or.jp>



最多の 38 流派が演武を奉納



鹿島新當流剣術

第15回鹿島神宮奉納 日本古武道交流演武大会

節目となる15回目の鹿島神宮奉納日本古武道交流演武大会が10月6日、武神を祀る鹿島神宮（茨城県鹿嶋市）の本殿前特設演武場で開催された。境内では参拝者などを含む延べ約2500名の観衆が見守る中、北は青森から南は沖縄まで全国各地から過去最多となる古武道の38流派136名が集まり、各地に保存・継承されている武技の奉納演武を行った。

霧雨が舞う鹿島の杜の境内で、日本古武道協会の内田康介理事・事務局長の開会宣言で大会は開始され、国歌斉唱に続いて、日本武道館の吉川英夫常任理事・事務局長が主催者挨拶を行った。次に鹿嶋市教育委員会の川村等教育長が祝辞を述べ、鹿島神宮の東俊二郎宮司が歓迎の言葉を述べた。

演武開始直前には晴れ間も覗き、演武台の一部がギリリと眩しく照り輝くなか、天真正伝香取神道流剣術の演武から開始。演武者は大きく飛び跳ねながら瞬時に剣を抜く居合術を披露した。次々に各流派の演武が奉納され、7年ぶりとなる現流兵法剣術が登場。演武者は身の丈ほど



演武者に拍手を送る観衆



(左から)内田日本古武道協会理事・事務局長、吉川日本武道館常任理事・事務局長、川村鹿嶋市教育長、東鹿島神宮宮司



卜傳流剣術



沖縄剛柔流武術



天真正伝香取神道流剣術



竹生島流棒術

紆余曲折を経ながらも、「かつて古の防人たちが旅立つ前に道中の安全を祈願した『鹿島立ち』を行つたという東の果てで、古武道各流派が武神に武技を奉納する」という形は変えることなく継続され、24年の今大会は、過去最多の38流派が出場した。日本古武道交流演武大会は、鹿島の地にしっかりと根付き、大きく花開いている。

の立木に左右から激しい打ち込みを行い、参拝に訪れた人々は舞台上に響く気合や打突音に足を止め、迫力ある演武に魅了された。演武納めは、地元・鹿島に伝わる鹿島新當流剣術が「鹿島の太刀」を披露した。
最後は内田理事・事務局長が閉会を宣言して終了した。



2010年に、各流派の術技向上と親睦を図ることを目的に産声を上げた本大会は、開催当初から武の祭神が鎮座する鹿島神宮で29流派が出場して行われた。その後、出場流派は増加し、19年には当時最多となる37流派が参加した。しかしコロナ禍のため、20年に大会は中止、21年は21流派に規模を縮小して行われた。



天道流薙刀術



兵法二天一流剣術



示現流兵法剣術



心形刀流剣術



大東流合気柔術 琢磨会



関口流抜刀術



宝蔵院流高田派槍術



伯耆流居合術



心月無想柳流柔術



柳生新陰流兵法剣術



荒木流拳法



天神真楊流柔術 (川越市)



鞍馬流剣術





荒木流軍用小具足



立身流兵法



小野派一刀流剣術



戸田派武甲流薙刀術



直心影流薙刀術



天然理心流剣術



▶大東流合気柔術

日本武道館発行の単行本

小笠原流の伝書を読む

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

鎌倉時代から江戸時代にいたる武家礼法で、弓術、弓馬術と結びついた小笠原流。小笠原家の歴史をその起源から概観し礼法の総論を述べる。



四六判・上製・322頁・定価2,640円

◎ご注文・お問い合わせ◎

(公財)日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<https://www.nipponbudokan.or.jp>



長谷川流和術



天神真楊流柔術 (新座市)



柳生心眼流體術



琉球王家秘伝本部御殿手



神道無念流剣術



氣樂流柔術



無雙直傳英信流居合術



北辰一刀流剣術



兵法タイ捨流



金硬流唐手・沖縄古武術



▶無比無敵流杖術



◀神道夢想流杖術

術技交流研修会と懇親会を開催

大会の前日となる5日、術技交流研修会と懇親会が行われた。

同研修会は境内の武徳殿で第1部と第2部に分けて実施された。演武者たちは大会の運営係も兼ねているため、必然的に見取り稽古を行うこととなり、真剣に各地の武技を見つめていた。



術技交流研修会では参加者が運営係も兼ね見取り稽古を行った

研修会終了後は、場所を神宮近郊の懇親会場へと移した。懇親会には、東宮司と田口伸一鹿嶋市長も出席。来賓も含めて大勢で賑わうなか、鹿島神宮から樽酒がふるまわれ、演武者たちは大会に向けて英気を養い、他流派との親睦を深めた。



鹿島新當流剣術・吉川常隆宗家の発声で乾杯を行う（懇親会）

「出場流派・参加者」

- ① 天真正伝香取神道流剣術（京増重利 吉田友樹、成毛弘、櫻井俊也）
- ② 沖繩剛柔流武術（新屋光、ジョセフ・タイト、知念邦明、寺内一男）
- ③ 卜傳流剣術（小山隆秀、小山秀晃）
- ④ 竹生島流棒術（松浦利英、橋口秀雄、石川裕章、ミヒヤエル・ラインハート）
- ⑤ 兵法二天一流剣術（加治屋孝則、月森慎吾、中村明、河野祐一郎）
- ⑥ 天道流雑刀術（木村有里、小野由紀子、野崎恵美、前田あかね）
- ⑦ 心形刀流剣術（小林強、伊東大輔、原謙一）
- ⑧ 宝蔵院流高田派槍術（西本昌永、加藤了嗣、西堀清作）
- ⑨ 示現流兵法剣術（東郷重賢、藤村亨、高橋幸司、アレキサンダー・ブラッドショール）
- ⑩ 大東流合気柔術 琢磨会（小林明彦、福本隆至、マインズ・アレックス、石濱嗣敏）
- ⑪ 関川流抜刀術（中山洋一、林憲一、米谷明、米谷香織）
- ⑫ 心月無想柳流柔術（桑波田秀祐、奥村宗一郎、仲尾昭二、ノア・バートン・グリーンストーン）
- ⑬ 尾張貫流槍術（下村幸裕、下村直樹、赤羽根大介、若尾洋子）
- ⑭ 伯耆流居合術（大窪敏明、井上優一郎、原田欣和、ブラッドリー・ラスコム）
- ⑮ 柳生新陰流兵法剣術（柳生耕一、瀬上俊顕、寺田裕昭、堀江明美）
- ⑯ 天神真楊流柔術（川越市（柴田俊充、今野賢太、中村丈二、阿部岳春）
- ⑰ 鞍馬流剣術（柴田章雄、吉田稯寛、松井康一、水野正太郎）
- ⑱ 荒木流拳法（西川二郎、細野桂一、鈴木崇史）
- ⑲ 立身流兵法（加藤紘、加藤敦、渡辺紳一、本橋浩介）
- ⑳ 荒木流軍用小具足（千葉明、河野真一）
- ㉑ 戸田派武甲流雑刀術（建入久代、永埜浩司、本多日向子、小野貴史）
- ㉒ 小野派一刀流剣術（矢吹裕二、石崎徹、門松猛、鈴木宏哉）
- ㉓ 大東流合気柔術（近藤昌之、白山秀遠、滝口太士、味岡功磨）
- ㉔ 天然理心流剣術（常田貞行、時田由記、小林恵子、須田英宏）
- ㉕ 直心影流雑刀術（松下てつ子、菅野佳子、小林典子、高橋チカ子）
- ㉖ 長谷川流和術（桑原巡、倉田勝己、逸見彰一、小野晴佳）
- ㉗ 琉球王家秘伝本部御殿手（片山修、勝沼悠、鶴時浩太郎、上原健）
- ㉘ 天神真楊流柔術（新座市（坂本忠彦、渡邊卓也、岩倉淳、柴田裕一郎）
- ㉙ 柳生心眼流體術（梶塚靖司、寺久保敦也、藤澤勝也）
- ㉚ 神道無念流剣術（萩崎昭、土屋正則、玉根純也）
- ㉛ 氣樂流柔術（反町明大、川島輝之）
- ㉜ 無雙直傳英信流居合術（関口高明、中野園子、尾上政人）
- ㉝ 神道夢想流杖術（河村豪祐、朝比奈辰樹）
- ㉞ 兵法タイ捨流（田添信一郎、森井俊和）
- ㉟ 無比無敵流杖術（根本憲一、村木浩治、沢幡伸男、小國英智）
- ㊱ 北辰一刀流剣術（高山陽好、上田忠夫、兼子勝喜、桐原英夫）
- ㊲ 金硬流唐手・沖繩古武術（早坂ゆかり、早坂義文、江幡妙子、植松哲司）
- ㊳ 鹿島新當流剣術（内田嘉昭、岡見安宏、橋本大、今井淳也）



▶佐藤伸一郎
(拓殖大)



▶濱名智男
(日本文化大)



▶松井完太郎
(国際武道大)



▶高宮敏光
(蹉跎中学)



本部企画 シンポジウム

Inclusion (包摂)

武道ならでのインクルージョン



日本武道学会第57回大会

日本武道学会第57回大会は9月21・22日、福岡県福岡市の九州産業大学で開催された。

初日には日本視覚障害者柔道連盟強化委員長の佐藤伸一郎拓殖大学教授による基調講演「視覚障害者柔道の現状と武道ができること」とシンポジウム「武道ならでのインクルージョン」が実施された。2日目は本年度総会と各専門分科会が行われた。また、2日間を通して「一般研究発表(人文・社会科学系、自然科学系、武道指導法系、ポスター発表)が実施された。

初日の午後1時から九州産業大学の北島己佐吉学長が挨拶を述べ、次に基調講演に移った。

■基調講演

◎講師 佐藤伸一郎氏(拓殖大学) テーマ「視覚障害者柔道の現状と武道ができること」

佐藤講師は2023年9月にパラリンピック柔道競技の強化統括責任者であるHPD(ハイパフォーマンスディレクター)に就任。24年9月にフランス・パリで行われた同大会柔道競技で日本は男女合わせて金メダル2、銀メダル1、銅メダル1を獲得し、総合4位の成績を収めた。佐藤講師はパリパラまでの1年間の強化の過程を振り返った。

強化では、選手の困難な点を理解すれば健常者と同様に強化すること

ができると思い、まずは現状を把握。勝てる可能性が高い選手に注力し、目標を立て、方針・具体策を決めて個別に強化した。また、それに微修正を加えることを繰り返した。

その過程では、選手たちから「障がい者への理解が足りない」と不満や意見が多く出された。初めはショックを受けたが多くの障がい者指導者学習した今では「選手は健常者と同様に主体的でなくてはならない」「指導者と同じ目線で向かい合わなければならない」と考えていると結んだ。

■本部企画「シンポジウム」

テーマ「武道ならでのインクルージョン」 前回の本部企画「多様『性』と武道」からさらに踏み込んで、武道にはさまざまな特性をもった人を包み込み、共に歩んでいける特性がある



柔道の専門分科会では、鈴木桂治全日本男子監督（左）と増地克之同女子監督がパリオリンピック柔道競技のコーチングについて講義を行った



（左から）優秀論文賞に輝いた本多氏、藤田氏、大保木会長

のではないかと発展させた「武道ならではのインクルージョン」とのテーマで行われた。

司会は阿部弘生氏（仙台大学）と木村有里氏（聖心女子大学）が務め、シンポジストとして、濱名智男氏（日本文化大学）、松井完太郎氏（国際武道大学）、高宮敏光氏（枚方市立蹊路中学校）が発表を行った。

▼濱名智男氏

「知的障がい者と柔道」

これまでの知的障がい者への柔道指導にあたり、柔道ならではの独自性があるのではないかと追求して、たどり着いたのが富木謙治の「柔道原理」であった。これは嘉納治五郎の自他融和共栄を技術上三つに分類したものである。知的に障がいのある人は他人との協調が不得意であるが、柔道原理に則した和する体験により相手の動きと心を合わせることで、包摂的な指導が可能になる。

▼松井完太郎氏

「インテグレーション（統合）もインクルージョン（包摂）できるか？」

そもそも戦場では腕が使えなく、目が見えなくとも戦わねばなりません。武道は起源から障がい者に開か

れた体系なのです。また武道ではスポーツが羨むようなゲームで勝たなくとも大きな意義と自信を持つ指導がなされています。パラリンピックは見方を変えたと障がい者に閉じられたものです。そうでなくて視障がい者にオリンピックを開くこともできるのではないのでしょうか。そして、障がい者と健常者は対立概念

なのでしようか。二元論から自由の間を開く思考が必要です。武道は、そのような思考のもとにあります。

▼高宮敏光氏

「隻腕の剣道家として考えること」

私は1歳の時に、農機具に手を挟まれ、右腕を失いました。また、小学1年から剣道を始めました。上段の構えです。大学に進学すると、周囲の選手が強くなり工夫が必要になりました。そこで、間合いが遠い時は柄頭、間合いが近くなつた時は瞬時に鍔元に持ち替えることを思い立ちました。この時、剣道は工夫次第で障がいに関係なく行える競技であることを実感しました。また剣道は、発達に障がいがある生徒も一生懸命に取り込むことができ、成長に繋げることが出来ます。



次に基調講演を行った佐藤講師がコメントーターとして3者と意見を交わし、最後は参加者との質疑応答が行われた。質疑応答では「障がい者を含む稽古では、みんなが一緒に同じでなくても構わない。個々が達成するための課題をこなせばいいのでは」などの意見が出された。最後に「道」は区別の概念がないのになぜこのようなテーマで議論せねばならないのか」との質問が出されたが、3者は異口同音に「武道の枠組みがあるのみ」との見解を示した。佐藤講師はさまざまな言葉があるから壁ができる面もある、武道は一つでいいのではないのでしょうかと締め括った。

■表彰式・総会

2日目には、表彰式と総会が行われた。令和6年度日本武道学会優秀論文賞の表彰では、本多壯太郎氏（福岡教育大学）と藤田英二氏（鹿屋体育大学）が選ばれ、大保木輝雄日本武道学会会長から表彰状を受けた。総会では、大保木会長が挨拶し、9件の審議事項が承認された。

一般研究発表 演題・発表者抄録掲載一覧①

自然科学系

演 題	発表者	所 属
剣道の打撃動作に左膝関節が及ぼす影響	大野 聖耶	順天堂大学大学院 スポーツ健康科学研究科
青年期の剣道競技者におけるアキレス腱の問題に関わる因子 —フィールド測定による検討—	廣野 準一	信州大学
剣道面防具用衝撃低減サポーターの評価と試装	濱西 伸治	東北学院大学工学部
剣道の攻防における脳活動について —NIRS と視線計測による計測—	治田 智之	東海大学大学院
日本剣道形における脳活動について —NIRS と視線計測による計測—	中島 有健	東海大学大学院
スポーツ選手における睡眠時無呼吸症の早期発見について	鈴木 浩司	日本大学松戸歯学部
握り革の使用感評価を目的とした行射中の把持力計測	佐藤 ふう	奈良女子大学
なぎなたの踏込み面打ち動作における下肢のキネマティクスの特徴	李 軒睿	国際武道大学大学院 武道・スポーツ研究科
柔道における美しい礼法に関する研究	佐藤 武尊	皇學館大学
一流競技者の背負投：バイオメカニクスの最適化された 体捌きの検証	石井 孝法	NPO スポーツ コーチングアカデミア
背負投における回転動作のキネマティクスの研究	菅谷 友紀	早稲田大学 スポーツ科学研究科
柔道競技者における体幹への衝撃が間欠的なパワー発揮に 及ぼす影響	中道 泰宏	順天堂大学大学院 スポーツ健康科学研究科
大学女子柔道選手の太外刈における刈り力の測定を試み とその刈り力の特性	羅 忠賛	東京学芸大学大学院
前回り受身のキネマティクスの研究—回転運動の観点から見た技術 の解明 熟練者と初心者の技術比較—	長谷川公輝	早稲田大学 スポーツ科学研究科
柔道衣の握り方に関する研究—引手に着目して—	中川原知波	早稲田大学 スポーツ科学研究科
柔道経験者と一般成人の重心動揺の比較 Comparison of center of gravity sway between judoka and non-judoka	吉田 大晟	兵庫教育大学
柔道における頭部衝撃負荷に関連する要因の探索的分析	越田専太郎	SBC 東京医療大学
柔道の頭部外傷における不意な状態が及ぼす影響	林 弘典	びわこ成蹊スポーツ 大学
引退した柔道選手の減量における後ろ向き調査研究	矢崎 利加	国際武道大学
大学女子柔道選手の月経周期が打込稽古によるストレス反応に 及ぼす影響	増地 克之	筑波大学
柔道競技者における認知的方略の特徴	金丸 雄介	SBC 東京医療大学
OpenPose における「投の形・受」の検出精度向上を目的とした 基礎的研究	横山 喬之	摂南大学

武道指導法系

演 題	発表者	所 属
「かた」学習を導入した剣道授業の計量テキスト分析による学習効果の検証と抽出	菊本 智之	常葉大学
国際レベルで活躍することになる女子剣道選手に得意技を獲得させた高校指導者の指導実践事例	竹中 美帆	筑波大学大学院
日本剣道形の競技化	伊崎 理倫	大阪体育大学大学院
柔道内股の効果的な掛け方に関する研究：背中の反りについて	石井 直人	秋田工業高等専門学校
現役騎手の受け身に対する必要性	吉田 岳	東海大学大学院
2020 東京五輪空手組手競技における得点経過に着目した試合展開の特徴	大徳 紘也	日本体育大学大学院
国際的な視点で見る柔道の価値：日本と海外の国立大学入学試験に着目して	仲田 直樹	日本経済大学
柔道スポーツ少年団における発達障害・グレーゾーン児童に関する調査 および新規運動プログラムに対する柔道指導者による評価	島田 莉子	東京学芸大学 大学院教育学研究科
大学女子柔道選手の基本的心理欲求と指導者のコーチングスタイルとの関係	吉田 晴香	安田学園高等学校
柔道選手における日常生活スキルの獲得と競技力との相関性	福田 大悟	筑波大学

一般研究発表 演題・発表者抄録掲載一覧②

人文・社会科学系

演 題	発表者	所 属
先駆的女性剣道実践者のライフストーリーに関する研究	馬越 千里	聖カタリナ大学 東海大学大学院
剣道における人間的成長と Well-being に関する研究 － web 調査からの検討－	山田 一樹	東海大学大学院
剣道八段者における剣道の実践と Well-being の関係	笹木 春光	東海大学
剣道における人間形成とは何か？ －人間的成長と Well-being に着目して－	松本 秀夫	東海大学
リバイバル剣道実践者のライフスタイルに関する質的研究	井上 涼	東海大学大学院
剣道と経営の共鳴 －パナソニックホールディングス元会長長榮周作氏を事例として－	秋山 大輔	九州産業大学
中国における剣道のグローバル化に関する人類学的考察 －北京市の事例－	渡邊孝士郎	日本体育大学
武道ツーリズム研究の現在地	和田 崇	県立広島大学
Budō as an Example of Integral Life Practice (日本武道をインテグラル理論の実例として考える)	GROFF, David K.	明治大学 国際日本学部

演 題	発表者	所 属
幻の史料「スポーツ柔道新聞（スポーツタイムス）」 （1950 年～ 1953 年）の原本の発見とその内容	矢野 裕介	愛知淑徳大学
広島県福山市松永地域の柔道振興を支えた岡田安和の取り組みについて	中村 和裕	福山大学
1 市町村の避難所指定の中学校における柔道資材の実態調査	大村 康太	東海大学大学院
大学の柔道授業概要についての研究 —国立大学のシラバスに着目して—	菊川 顕	岡山商科大学
全日本実業団柔道選手のキャリアプランニングに関する調査	中村 兼三	全日本柔道連盟
柔道における「旗判定」の意義と課題について	佐藤 雄哉	国士舘大学
柔道を利用した転倒予防法プログラムに関する研究：ダイナミック・ バランス・フォー・ライフ（アデレード大学、オーストラリア）の 考察を中心に	SORI DOVAL MAJA	津田塾大学
柔道を利用した転倒予防法の国際比較	曾我部晋哉	甲南大学
古武道界における近年の女性演武者数の動向	木村 有里	天道流
旧制第四高等学校剣道部の活動記録：南下軍の記憶から	小田 佳子	法政大学
島原藩における槍・剣術他流試合の始まりについて	森本 邦生	貫汪館
新陰流伝書にみられるわざに関する比喩表現についての一考察： 江戸柳生家を中心に	小嶋 祐仁	天理大学大学院
新陰流「轉」からみる大機大用 —脱人間中心主義の人間学に向けての試論—	中嶋 哲也	茨城大学
「剣居一体」の可能性について～新陰流と制剛流との関わりから～	佐竹 彬	石田・佐竹稽古塾
荻生徂徠の「土道」論 —「武士道」批判と「主従の理想像」に着目して—	堀川 峻	筑波大学体育系
大日本武徳会における武道教育に関する研究 —分会の機能に着目して—	筒井 雄大	国際武道大学
夕雲流剣術にみられる心法論に関する一考察 —『天真独露』に着目して—	柴田 直生	筑波大学大学院
琉球王朝時代の武技（手（ティー）とは）	早坂 義文	古武道研究会
弓術流派日置流印西派「秘歌」に関する一考察	黒須 憲	東北学院大学
近代武道の異種試合に関する一考察： 戦前の米国における弓道対アーチェリー	五賀 友継	国際武道大学

一般研究発表 演題・発表者抄録掲載一覧③

ポスター発表

演 題	発表者	所 属
パーキンソン病患者への剣道指導を通して見える武道の可能性 ～競争社会から共創社会へ～ その7	三苦 保久	滋賀県立大津清陵 高等学校
中学校武道授業の学習成果に関する検討 (2) —大学生に対する回顧的調査から—	京林由季子	岡山県立大学
剣道における人間的成長と Well-being に関する研究 —剣道実践者の保護者を対象とした質的分析—	天野 聡	東海大学
中学校柔道授業における探究的な学習の成果と影響	由留木俊之	岸和田市立山直 中学校
大学柔道選手が指導者から受ける非言語的行動の印象と頻度 に関する調査 その2	熊代 佑輔	国際武道大学
柔道授業における「柔道演武」の教材開発	川染 拓海	大阪教育大学大学院
大学女子柔道選手の月経周期が打込時の成長ホルモン分泌に 及ぼす影響	都留 麻瑞	筑波大学
世界トップレベル柔道選手の大学4年間における水分代謝と 身体組成の経時的変化	田窪 成将	筑波大学大学院
柔道競技者における膝関節アライメントの検証	松岡 大輝	順天堂大学大学院
小城新陰流の伝承について —近世流派剣術の地方への展開の一事例—	立木 幸敏	国際武道大学
日本少林寺拳法の源流考察—中国少林拳との比較研究を通して—	川島 直央	北京体育大学
武道歌の計量テキスト分析における形態素解析辞書の選択と テキストデータの加工	小林 勝法	文教大学
後の先における勝利要因の分析：反応者の視点から	川部 宰也	中京大学大学院
空手道の基本動作の評価における競技者の視線行動の特徴	古庄 亮二	大津美咲野整骨院
重傷頭部外傷予防に向けた後方受身の指導法	池田 希	いけだ接骨院
大学生柔道実践者における競技継続に及ぼす要因の検討	川崎 康平	順天堂大学大学院
柔道競技における国内主要大会のデータベース作成：2021年から 2023年の講道館杯全日本柔道体重別選手権大会を対象として	三宅 恵介	中京大学
学校体育における現代版「精力善用国民体育」による 柔道授業の検討	大辻 新恭	関西大学大学院



日本が男女とも団体優勝、 個人は3位以上を全て独占する快挙

第19回世界剣道選手権大会

7月4日から7日までの4日間、第19回世界剣道選手権大会がイタリア・ミラノのユニポル・フォーラムにおいて国際剣道連盟（FIK）主催、イタリア剣道連盟（CIK）主幹で開催された。

世界剣道選手権大会（WKC）は、1970年のFIK設立と同時に第1回大会が日本武道館で開催。以来、3年に1回開催されてきた。第18回大会が2021年にフランス・パリで予定されていたが、新型コロナウイルスの世界的感染拡大のため初めて中止となり、今回の19WKCが6年ぶりの開催となった。

今大会には、FIK加盟64団体の内、61の国・地域からの参加エントリーがあり、2018年の前回大会を約2割上回る734名の選手、265名の役員が参加し、WKCとして初めて1000人規模の大会となった。団体戦チーム数も男子が60チーム（前回大会は49）、女子が45（同38）と大幅に増えたため、大会を一日延ばし4日間での開催となった。

大会のプログラムとしては、団体

戦、個人戦ともに3から4チーム・人からなるグループで予選リーグを行い、原則1位が決勝トーナメントに進むという従来の方式を踏襲した。これはFIKの目的である「加盟団体相互の信頼と友情を培うこと」に従い、選手同士の友好・親睦を深めるため、大陸予選を行わず、全ての加盟団体が平等に参加できることに加えて、トーナメント方式で1試合で敗退する選手が出ないよう予選リーグで誰もが最低2試合は行えるよう配慮されたものである。また毎日試合後に1時間の合同稽古の時間を設けることも親睦を深めることを目的としている。

さらに女性の審判員が審判団に入ったことも今大会が初めてのことである。数字的には審判主任、審判員合わせた48名の審判団の中の9名に過ぎないが、前回大会まで男性のみに限定されていたことを考えると大きな変化である。

大会は、初日に女子個人戦、2日目に男女団体戦予選リーグ、3日目に男子個人戦が行われ、最終日に男女団体戦の決勝トーナメントが行われた。



塚本博之（左）、大城戸功範士による日本剣道形



開会式で19WKC賛歌を歌うMarco Chingari氏

開会式、女子個人

(7月4日)

大会初日は、開会式前に今回特別に作成した記念切手のお披露目会が、大会後援もしている在ミラノ日本国総領事館の小林敏明総領事出席のもとで行われた。

開会式では、網代忠宏国際剣道連盟会長の挨拶、主管のMatteo Petri C I K会長の挨拶の他来賓の祝辞等があった後、イタリアの有名なオペラ歌手であるMarco Chingari氏により、今回特別に作曲された19WKC賛歌が女性ダンサーたちによるモダンな演出とともに歌われ、一時会場がオペラ劇場のようになった。その興奮が残る中で、塚本博之範士と大城戸功範士による日本剣道形の演武が行われ、再び厳肅な雰囲気の中で開会式を終了した。

女子個人戦は各参加団体最大4名まで選手登録が可能で、今回は56の国と地域から203名の選手が参加して開催された。日本からは、末永真理、近藤美洗、佐藤みのり、妹尾舞香の4選手が参加した。

日本の4選手は、それぞれ3名での予選グループを1本も失うことなくすべて二本勝ちで、決勝トーナメントに進んだ。

決勝トーナメントでは、四つのブロックに日本の選手が1人ずつ割り振られ、それぞれ順調に駒を進めた。第1ブロックの佐藤は、準々決勝でオーストラリアのKishikawaに先取するも面を取り返されたが、最後は面を決めて準決勝へ進んだ。第2ブロックの近藤は3回戦まですべて二本勝ちで駒を進めた。準々決勝でカナダのPaerに面を先取され肝を冷やしたが、最後は逆転で準決勝へ進んだ。第3ブロックの末永は、1回戦は手こずり延長戦となったが、その後は二本勝ちを続け準決勝へ進んだ。第4ブロックの妹尾も1回戦は延長戦となったが、一本も取られることなく準決勝まで進んだ。その結

果、準決勝はすべて日本の選手による対決となった。

準決勝は、佐藤対近藤、末永対妹尾の組み合わせとなった。監視片対決となった最初の試合では、近藤が面を決め決勝へ進み、末永・妹尾戦は延長に入ってから末永が放った小手を妹尾が面に返したが、末永の小手に旗が上がった。

決勝では、末永が小手を先取した



女子個人・決勝=近藤（右）が攻め込む

が、近藤が試合終盤に小手を返し延長戦となり、3分区切りの延長戦3回目に小手から面を決め日本人対決は近藤の逆転優勝で幕を閉じた。

男子個人

(7月6日)

男子個人戦は、60の国・地域から236名が出場した。日本からは、星子啓太、松崎賢士郎、大平翔士、木村恵都の4選手が参加した。

各リーグ4人で競われる予選では、日本の選手4名は全て勝利し、難なく突破した。

決勝トーナメントでは、四つのブロックに日本の選手が1人ずつ割り振られており、ここから各選手とも強豪選手と相対することになった。

決勝トーナメント1回戦、4選手の中で最初の日韓の対戦となった松崎であったが、Jeongに対して立て続けに2本、面を決め勝利。その後、星子は2回戦に韓国の Kwon と

対戦。試合終盤に胴を打たれ、取り返しに行くも決定打がなく時間が進む。試合終了間際に小手を返しその

まま延長に入り、流れを取り戻した星子が再び小手を決め、苦しみながらも勝利した。今大会の日本代表男子の最年少の木村は引き技を武器に堅実な剣道で勝ち進み、3回戦では団体戦で韓国の大將を務めた Kim と白熱した試合の末勝利。大平は試合巧者ぶりを発揮し、自分よりも上背のあるフランスやイギリスのヨーロッパ勢に対し一歩も引かず勝利を積み上げた。

4選手全員が準決勝に駒を進め、ベスト4を日本の選手が独占するところが決まった。準決勝は松崎対木村、星子対大平の対戦となった。

まず松崎が木村に対し飛び込み面を決めるが木村も返し胴で勝負に持ち込む。最後はお互いに面を放ったが松崎に旗が上がった。星子対大平は警視庁同士。互いに手の内を知り尽くした相手であり、互いに攻めるも決め手がなく延長戦に進む。最後は大平の手元が上がったところを星子が見逃さず、小手が決まり勝利した。

決勝は松崎対星子。こちらは大学の同級生対決で過去に何度も対戦し、2023年10月にサウジアラビ



男子個人ベスト4入賞者



女子個人ベスト4入賞者



男子個人・決勝＝星子（右）が小手を放つ

アで行われたコンバットゲームスでも決勝で対戦し、その時は松崎が勝利している。面を得意とする松崎に対し、星子はいまぐれ間合を詰めて技を出させず、松崎も懐の深い剣道で星子を抑える。そのまま決め手がなく延長に進む。延長でも緊迫した攻防が続いたが、鏢競り合いの一瞬の隙を見逃さず星子が面を放ち、優勝を決めた。

これで男子個人は日本勢が17回連続17回目の優勝。ベスト4を独占したのは1994年の第9回大会以来、30年ぶりであった。

団体(男子・女子)

(7月5・7日)

大会2日目の午前中に行われた女子団体戦予選リーグには56の国・地域が参加した。日本チームには、主将の渡邊タイ以下、高橋萌子、松本智香、竹中美帆、妹尾舞香、水川晴奈、川合芳奈が登録され、試合ごとに相手チームに応じて選ばれた5名の選手により編成された。

予選リーグで日本は、フランス、ドイツ、トルコというヨーロッパの

強豪国と同じグループになったが、3試合ともに1本も失うことなく全試合で二本勝ちを収め、決勝トーナメントに進んだ。なお、全チーム数の関係でこのグループからは2位のフランスも決勝トーナメントに進出した。

2日後の決勝トーナメントでも、1回戦のハンガリー戦から、イタリア、オーストラリアと全て5―0で撃破し難なく決勝へ駒を進めた。決勝の相手は韓国。12WKC以来、毎回決勝で対する強豪であるが、まだ日本女子チームとのレベル差は大きく、先鋒松本が一本勝ち、次鋒高橋が二本勝ちし王手、中堅竹中は引き分けたが、副将の妹尾が二本勝ちでチームの勝利を決め、大将の渡邊も二本勝ちし、1997年に女子の試合が始まって以来10連勝を達成した。

男子団体戦には、60の国・地域が出場した。日本チームは、主将の安藤翔以下、竹ノ内佑也、宮本敬太、草野龍二朗、星子啓太、松崎賢士郎、大平翔士の7名の選手が団体戦選手として登録された。

大会2日目の予選リーグで日本チ

ームはオランダ、タイ、ポルトガルと同じグループになった。初戦のオランダ戦で5試合すべて二本勝ちという完勝を皮切りに、第2試合ではタイを4―0、ポルトガルも5―0で危なげなく勝利し予選グループ1位で決勝トーナメント進出を決めた。

2日後に行われた決勝トーナメントでも、予選の勢いそのままに1回戦のハンガリー、2回戦のカナダに

それぞれ全試合二本勝ちの5―0で快勝し、準決勝では近年力を付け今年のヨーロッパ選手権大会で優勝した強豪フランスに対しても5―0で勝利し、決勝へ駒を進めた。

今大会で11回目のWKC決勝での対戦となる韓国に対し、日本は星子、松崎、草野、竹ノ内、安藤の布陣で臨んだ。先鋒の星子は落ち着いて試合運びで進め、中盤に鏢競り合



女子団体・決勝＝副将の妹尾(左)が二本勝ちでチームの勝利を決める



男子団体・決勝＝次鋒の松崎（右）が打突の機会をうかがう

めそのまま一本勝ち。続く次鋒の松崎も攻め勝ち、下がる相手に対し完璧な飛び込み面を決めて一本勝ちを収めた。2-0として優勝に王手をかけた中堅戦では流れをつなぎ勝負を決めた日本であったが、後がない韓国 Park が上段の草野の面を返して胴、さらに小手を返されて面と立て続けに決められた。この一勝で会場が韓国応援ムードになり、まるでアウェーでの試合のよう

な雰囲気になった。中堅戦の勝利で逆転に勢いづく韓国 Lee に対し、副将の竹ノ内も序盤にまさかの飛び込み面を取られ嫌なムードであったが、その中でも竹ノ内は冷静に引き小手を返しタイにし、勢いを取り戻した竹ノ内はそのまま下がる相手に面を決め、そこで日本の勝利が確定した。最後に大将の安藤。チームの勝利は決まっていたものの、互いに気力が十分な攻防が見られたが決め

手はなく引き分け。
日本男子団体は今回で5大会連続17回目の優勝となった。なお3位にはアメリカと、初めての入賞となったフランスが入った。

19 WKCを終えて

▽男子監督 東良美

個人戦の4選手はいずれも個人初出場であったが、プレッシャーにも臆することなく、思い切った技を打ち切った。団体戦では、初戦から強化訓練で培った攻防一致、そして最後は攻撃剣道で一本にすることが徹底され、5大会連続17回目の優勝を成し遂げた。攻撃剣道を最後まで貫いてくれた選手たちに感謝したい。

▽女子監督 竹中健太郎

個人戦の重圧が計り知れないあの舞台で、4選手が見事に責務を果たし、団体戦にバトンをつないでくれた。団体戦は、結果的に宿敵韓国に快勝で終わったが、失点やミスが命取りになることを想定して布陣を固め、手綱を締めて決勝に挑んだ。大会を終えた今、真の実力を発揮して

結果と内容を伴わせ、所期の目的を達成してくれた選手たちを誇りに思うと同時に心から感謝の意を表したい。

個人戦優勝選手コメント

▽男子優勝 星子啓太選手

たくさんの方に応援いただき、優勝できてホッとしました。今日まで諦めないでやってきた積み重ねが優勝につながってよかったです。

▽女子優勝 近藤美光選手

高橋萌子選手に「最後まで諦めるな」と声掛けしてもらっていたので絶対諦めないという気持ちで戦いました。長い延長はきつかったです。集中力は切れておらず、最後は決まってよかったです。

海外選手のコメント

・Wei Yi Wong 選手

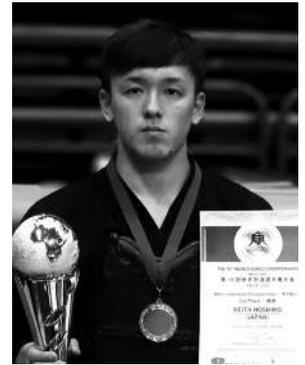
(シンガポール・シンガポール剣連会長、今大会で6回目の出場)
私にとって6回目のWKC参加でしたが、過去と同様世界中の才能あ



世界各国から駆けつけた応援で会場は埋め尽くされた



女子個人優勝＝近藤美洸



男子個人優勝＝星子啓太

る選手たちと戦うことで、新しいことを学び、自分の限界に挑戦し、剣道を通して成長することができました。この大会に参加できたことに感謝しています。

・Miyabi Fisher 選手

(イギリス・女子個人戦ベスト8)

今回の世界選手権大会でとてもよい選手たちと戦えて貴重な経験をすることができました。特に末永選手は私の尊敬する選手で試合ができたことが光栄です。今、私は日本に剣道を学びに来てます。次の世界選手権大会を目指して頑張ります。

・Betty Park 選手

(カナダ・女子個人戦ベスト8)

剣道の最高峰である国際舞台で、国も言葉も違う選手たちが、尊敬、鍛錬、忍耐という同じ価値観を共有できたのは本当に感動的でした。このグローバルコミュニティの一員であることに感謝したいです。ベスト8に入賞できたことについては、応援してくれたすべての人たちに感謝したいです。

大会総評

19 W K C の試合・審判に関して

は、「剣道試合・審判・運営要領の手引き」に元々明記されていた「鏝競り合いになった場合は、試合者は積極的に技を出すか、積極的に解消するように努めなければならない」を、コロナ禍を契機として日本国内で厳密に適用されるようになっていた(暫定的試合審判法)が、本大会もそれに倣って行われた。その効果もあつてか、積極的かつ正々堂々とした試合が多く見られ、また審判の有効打突(一本)の判定にも向上がみられた。一方で、試合進行上の審判の措置については課題の残る面もあった。

大会運営面に関していえば、6 試合場を確保し、かつ4日間開催としたことで、日程上無理なく試合を進行することができた。また、大会第1日(第3日の最後には合同稽古の時間を確保することができ、各国選手・役員・審判からも好評であった。末筆ながら、2012年の第15回ノヴァーラ大会以来12年という短いスパンにもかかわらず立候補し、ま

た大会運営を立派に成し遂げてくれた主管の C I K に、深甚の感謝と敬意を表したい。

▽次回20 W K C は、19 W K C 前日の国際剣道連盟総会で2027年5月下旬に東京で開催されることが決定された。

(文責) 全日本剣道連盟国際部

【大会結果】

▽男子団体

優勝 日本

準優勝 大韓民国

3 位 フランス、

アメリカ合衆国

▽女子団体

優勝 日本

準優勝 大韓民国

3 位 オーストラリア、

アメリカ合衆国

▽男子個人

優勝 星子啓太

準優勝 松崎賢士郎

3 位 大平翔士、木村恵都

▽女子個人

優勝 近藤美洸

準優勝 末永真理

3 位 佐藤みのり、妹尾舞香

第8回世界なぎなた選手権大会

日本が8連覇に輝く



総合優勝し、世界選手権大会8連覇を成し遂げた日本選手代表団
 (後列左から) 福井直亮、増田良明、増田道仁、福岡知子、吉井和代、中村優太、南館日奈太、廣岡奈緒美
 (前列左から) 三浦里帆、林田智笑、貫井みさき、服部ゆかり、林田葉純

第8回世界なぎなた選手権大会が、米・コロラド州のコロラド大学ボルダー校で7月13日に開催された。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大があったため同大会は1年延期されたが、国際なぎなた連盟主催のもと、大会・親善大会を合わせて16カ国、100名近い選手が参加し、気持ちのこもった試合が繰り広げられた。

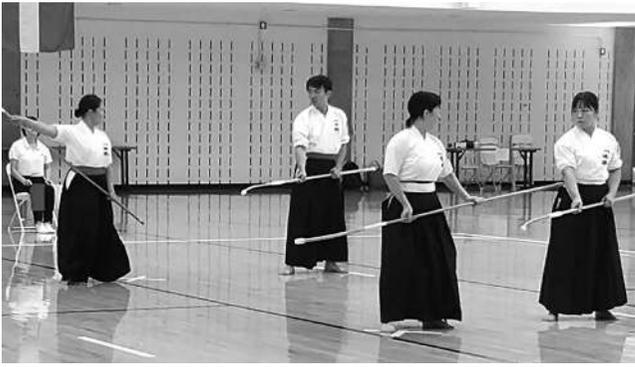
日本は演技競技(しかけ応じ・全日本なぎなたの形)、試合競技(団体男子・女子、個人男子・女子)の部に参加し、6冠を達成。総合優勝と世界選手権大会8連覇を果たした。

演技競技

▽しかけ応じ

しかけ応じは、なぎなたの技の向上を図るとともに、正しいなぎなたの普及発展を目的として行われている。男女問わず出場可能で、指定された3本(1・3・6本目)を2組ずつ行い審判員5名により旗形式で勝敗を決する。

林田智笑・貫井みさきチームは、



しかけ応じ決勝＝中村・林田（葉）組（左奥）、林田（智）・貫井組



全日本なぎなたの形 打・貫井（手前右）、仕・服部

丁寧な技で演技を行いすべての試合で審判員全員が旗を上げ、5―0で決勝まで勝ち上がった。中村優太・林田葉純チームは、体を生かした大きな技でダイナミックに演技を行い4―1で決勝へ駒を進めた。

日本勢同士となった決勝では、2チームともそれぞれの良いところを生かした演技をすることができた。結果は5―0で林田智笑・貫井チームの勝利となった。

▽全日本なぎなたの形

全日本なぎなたの形は、なぎなたの刃部の切先・反り・物打ち・鏑しのぎと石突などの各部位がそれぞれの特徴を生かし操作できるような高度な技で構成されている。男女問わず出場可能で、指定された3本（2・4・5本目）を2組ずつ行い審判員5名により旗形式で勝敗を決する。

貫井みさき・服部ゆかりチームは、気持ちも落ち着いていて安定し

た技で臨めた。何度も練習を積み重ねたことにより、息の合った演技ができた。4本目の払われてからの振り返りでのスネでは、なぎなた特有の大きな軌跡をみせながら体さばきとともにスネを決め、優勝することができた。

■試合競技

定められた部位、面部（正面と左右の側面）、小手部（左右）、胴部（左右）、脛部（左右の外すねと内すね）、

咽喉（のど）を確実に早く打突して勝負を競う競技である。3本勝負が原則で、試合時間内に有効打突を2本先取した方が勝利となる。ただし、制限時間内に所定の本数に達しないときは、審判員の判定によって勝敗を決する。

▽女子団体

先鋒・三浦里帆、中堅・林田智笑、大将・林田葉純の3名で出場した。先鋒の三浦は初出場だったが、思い

日本選手代表団

- ▷監督 福岡知子（奈良）
- ▷コーチ 吉井和代（東京）
- ▷マネージャー 廣岡奈緒美（奈良）
- ▷トレーナー 福井直亮
- ▷選手
 - 団体戦（男子）
 - 先鋒 南館日奈太三段（岩手）
 - 中堅 中村優太四段（神奈川）
 - 大将 増田道仁四段（兵庫）
 - 団体戦（女子）
 - 先鋒 三浦里帆四段（愛知）
 - 中堅 林田智笑五段（大阪）
 - 大将 林田葉純五段（大阪）
 - 個人試合（男子）
 - 増田道仁四段（兵庫）、増田良明四段（兵庫）、南館日奈太三段（岩手）
 - 個人試合（女子）
 - 林田智笑五段（大阪）、林田葉純五段（大阪）、貫井みさき五段（京都）
 - 演技競技（しかけ応じ）
 - 林田智笑五段（大阪）・貫井みさき五段（京都）、林田葉純五段（大阪）・中村優太四段（神奈川）
 - 演技競技（全日本なぎなたの形）
 - 貫井みさき五段（京都）・服部ゆかり五段（茨城）



リズムなぎなた（日本選手団）



試合競技・女子個人＝林田葉純対貫井みさき

切りの良い攻めで打突を決め中堅の林田智笑へと繋いだ。中堅は切先を利かし、落ち着いた試合運びで打突を決めることができた。大将の林田葉純は、大きな技で相手を攻め勝利に貢献した。3名とも自分の持ち味を生かした試合を行い、優勝することができた。

▽男子団体

先鋒・南館日奈太、中堅・中村優太、大将・増田道仁の3名で出場した。先鋒の南館と中堅の中村は、初出場で緊張していたようだったが、遠間からの持ち替えや相手を狙って

の出ばなの技を繰り出して勝利することができた。大将の増田は、常に落ち着いた技を繰り出し、今まで使えなかった持ち替えなどにも挑戦し勝利することができた。チーム全体の気持ちを一つにすることができ、優勝に繋がったのだと思う。

▽女子個人

貫井みさき、林田葉純、林田智笑の3名が出場した。貫井選手は、先に気持ちがこもった試合運びでコート決勝まで勝ち上がったが、コート決勝では、林田葉純選手のスネが決まり、3位決定戦へ進んだ。3位決定戦では、カナダの選手と対戦し、スネを2本決め勝利。3位入賞となった。決勝は、第6回世界なぎなた選手権大会（カナダ）個人優勝者の林田葉純選手と、全日本6連覇中の林田智笑選手の姉妹対決となった。試合でもよく当たっている両者だったが、林田智笑選手が面を決め、初の世界チャンピオンとなった。

▽男子個人

前回大会の優勝者増田良明選手をはじめ、増田道仁、南館日奈太の3

名が出場した。南館選手は、若さで自分から攻めていきコート決勝へと駒を進めた。コート決勝では、貫祿の試合運びで増田良明選手がスネを決め、南館選手は3位決定戦へとまわった。3位決定戦では、ベルギーの選手にスネを決め3位入賞を果たした。決勝は、増田良明選手と、全日本5連覇中の増田道仁選手の親子対決となった。緊迫した中での対戦で、一瞬の隙をついて増田道仁選手の面が決まり、勝敗が決まった。両者とも同じ稽古場で一緒に練習をすることが多く、相手の手の内もよく知っている中での対戦となった。

■リズムなぎなた

公開競技であるリズムなぎなたは、カナダ、日本の2カ国が、それぞれの特徴を生かした技の構成で実施した。日本は、基本を大切にされた技の構成で、音楽に合わせて、刃筋まで気を配り「調和」を意識したリズムなぎなたを披露した。



日本選手たちは総じて動きが良く、また、所作も一貫して高いレベルで競技を行っていたように思う。

これは、先生方にご指導いただき、定期的に実施した強化合宿において、常に世界のお手本になれるよう、「美しいなぎなた」というチーム目標を掲げ、このテーマにブレが出ないよう、それぞれが終始徹底して稽古を重ねてきたからだと考え

る。また今回は、世界大会に出場経験のある選手と初めて出場する選手が半々程度の割合だった。経験者は初めての選手たちに対して気を配り、彼らが伸び伸びと持てる力の全てを發揮できるようにサポートをし、そして初めて出場する選手たちは、経験者からアドバイスを頻繁に受け、稽古に励み大会を迎えられた。

男女団体戦において、若手の先鋒たちが生き生きとした試合をして結果を出したことは、後ろに信頼できる先輩たちが控えていたのも一因だと思われる。選手間の「チームワークの良さ」も際立ち今回のような素晴らしい結果に繋がったように感じた。

世界のなぎなたに目を向けてみると、全体的にレベルが大きく向上しているように思われる。指導者や好

敵手が身近に見つけられない厳しい練習環境の中で、日々研究を重ねて鍛錬し、遠方へ自ら出向き、鍛錬法を吸収して、このような「世界」の舞台へと出場している。今後ともリーダー国日本として「武道なぎなた」を体現できるように、精進していきたいと考えている。

(文責：福岡知子)

【大会結果】

▽演技競技(しかけ応じ)

① 林田智笑・貫井みさき(日本)

② 中村優太・林田葉純(日本)

③ K.T.sukamaki・K.Roche(アメリカ)

▽演技競技(全日本なぎなたの形)

① 貫井みさき・服部ゆかり(日本)

② K.Roche・S.Rahanal(アメリカ)

③ J.Dermine・F.Dermine(ベルギー)

▽女子個人試合

① 林田智笑② 林田葉純③ 貫井みさき

▽男子個人試合

① 増田道仁② 増田良明③ 南館日奈太

▽女子団体試合

① 日本② アメリカ③ フランス

▽男子団体試合

① 日本② ベルギー③ フランス

日本武道館の単行本



剣道の文化誌 明治大学教授 長尾 進 著
四六判・上製・480項・定価2,640円

本書では剣道の持つ文化としての多様な面を、時代を追いながら、わかりやすく紹介する。剣道を愛好する方には剣道を改めて見直すきっかけとして、剣道をあまりご存知ない方には剣道という日本文化の成り立ちを知るガイドとして、ぜひ一読を。



剣道 その歴史と技法 埼玉大学名誉教授 大保木輝雄 著
四六判・上製・516項・定価2,640円

本書は戦国末期から江戸時代初期を起点に、今日に至るまでの剣道の歴史的發展の経緯を示した。戦国期以前の剣術の有り様を認識した上で改めて各時代の流れに沿った剣道史を考えてみたいという筆者の思いを実現すべく、連載終了後5年のときを経てついに単行本化。



合気道 その歴史と技法 合気道主 植芝守央 著
四六判・上製・362項・定価2,640円

世界140の国と地域、国内2,400の道場・団体で愛好される合気道。開祖・植芝盛平翁の生涯、植芝言祥丸二代道主による普及・振興、さらなる発展に繋げた現道主による取り組み。その歴史の中で培われ伝え続けてこられた合気道の理念、それを体現する稽古法、基本的な技法の解説……合気道の全てを網羅した決定版。



空手道 その歴史と技法 小山正辰・和田光二・嘉手苺徹 著
四六判・上製・548項・定価2,640円

空手は沖縄で発祥し、日本本土に伝承され、今や世界のKARATEとなった。その歴史と技法を、那覇系剛柔流の小山正辰氏、首里系松濤館の和田光二氏、沖縄空手研究の第一人者である嘉手苺徹氏の共同執筆で重層的に紹介。嘉手苺氏が発見した剛柔流の開祖・宮城長順の最新の事実、小山・和田の両世界チャンピオンのエピソードなども満載。空手の真髄に迫る白眉の一作。



マンガ・日本武道風土記 漫画家・別府大学客員教授 田代しんたろう 著
B5判・248項・定価1,100円

全国の「武道ゆかりの地」を実際に訪ねて、ペンとスケッチブックを片手に徹底取材。地元関係者や施設の学芸員とのやりとり、その土地の成り立ちをわかりやすくマンガで紹介。多数の資料をもとに丹念に描いた当時の風景も魅力の一つ。マンガの世界で日本各地をめぐってみては。



死ぬまで弓道 弓道教士七段 小牧佳世 著
四六判・上製・342頁・定価2,640円

競技中に急性大動脈解離に倒れた筆者は奇跡的な生還を果たす。その8カ月後に弓道を再開し、わずか2年後に皇后盃で十射皆中、優勝を果たした。本書では激動の自伝を記し、弓のあり方や「早気」など弓道家の誰もが陥る課題などを模索する。死の淵を覗き、現在も全身全霊で弓を引き続ける筆者だからこそ記せた弓道伝記かつエッセイ



学校武道の歴史を辿る 筑波大学名誉教授 藤堂良明 著
四六判・上製・354項・定価2,640円

明治維新を迎え、武術は衰退したが、近代化の過程で武道が「人間形成の道」として学校制度の中に組み込まれ、発展した。太平洋戦争後に武道は全面禁止となるが、それを乗り越え、「格技」として復活。平成24年度には「中学校武道必修化」が実現した。学校武道の歴史を丹念に辿り、今後のあり方を探る。

ご注文・お問い合わせ

(公財)日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<https://www.nipponbudokan.or.jp>

